

平成26年度事業報告

自 平成26年10月1日 至 平成27年9月30日

I. 展覧会

1. 第43回「日本の書展」直轄展

下記の直轄4展を開催。43回直轄4展の出品者総数は3,476名で、42回展に比べ51名減少。入場者数は、直轄4展合計で15,606名、前回に比べ682名増加。

42回展に続き今回も、出品者には図録（現代書壇巨匠・現代書壇代表・委嘱作品と全出品者名簿を掲載）および出品者本人の作品ブロマイドを2枚ずつ贈呈した。

今回から各直轄展の会場内で出品作家（役員）を講師としての1時間程度のギャラリートークを行った。作品解説に加え、出品作家のエピソードや展覧会を訪れた際の作品の見方など、トーク内容も多様で大変好評だった。どのギャラリートークも80名程度の参加があり、新たな試みとしては成功だった。

(1) 関西展

会 期 平成27年5月28日（木）～5月31日（日）

会 場 大阪国際会議場（3階イベントホール）

主 催 （公財）全国書美術振興会 産経新聞大阪本社

後 援 文化庁

協 賛 （公社）日本書芸院

開催披露祝賀会 平成27年5月28日（木）12:30～14:00

リーガロイヤルホテル 3階 「光琳」

ギャラリートーク 平成27年5月31日（日）11:00～

大阪国際会議場 3階イベントホール

講師 山本高邨評議員

関西展の出品数は、巨匠15点、代表77点、委嘱27点、招待370点、秀拔選589点、合計1,078点、会期中の入場者数は2,056名だった（前回42回展の入場者数は2,237名）。

産経新聞社の紙面協力、日本書芸院の協賛も得ている。

会期初日の5月28日（木）12時30分から、リーガロイヤルホテル3階「光琳」において開催披露レセプションを行い、来賓・出品書家・招待者合わせて337名の出席があった。

レセプションでは、当会荒船清彦代表理事・会長の主催者代表挨拶、産経新聞社専務取締役・大阪代表 齋藤勉氏から共催者挨拶があった後、日本芸術院会員 井茂圭洞名誉顧問の書家代表挨拶へと続き、特命全権大使関西担当 三輪昭氏の乾杯発声で祝宴に入り、14時過ぎに終了した。

(2) 中部展

会 期 平成27年6月3日（水）～6月7日（日）

会 場 愛知県美術館ギャラリー

（愛知芸術文化センター8階 展示室A・B・C・D・E・F・G・H・I・J）

主 催 （公財）全国書美術振興会 中日新聞社

後援 文化庁 愛知県 岐阜県 三重県 名古屋市
各県市教育委員会 東海テレビ放送

協賛 (公社) 中部日本書道会

開催披露祝賀会 平成27年6月3日(水) 18:00~19:40
名古屋東急ホテル 3階 「ヴェルサイユ」

ギャラリートーク 平成27年6月7日(日) 11:00~
愛知県美術館ギャラリー
講師 鬼頭翔雲評議員

中部展の出品数は、巨匠15点、代表77点、委嘱14点、招待165点、秀拔選536点、合計807点、会期中の入場者数は3,191名だった(前回42回展の入場者数は3,869名)。

中日新聞社の紙面協力、東海テレビ放送の放映協力、中部日本書道会の協賛を得ている。
6月3日(水)18時から、名古屋東急ホテル3階「ヴェルサイユ」において開催披露レセプションを行い、来賓・出品書家・招待者合わせて310名の出席があった。
レセプションでは、当会荒船清彦代表理事・会長の主催者代表挨拶、中日新聞社常任顧問 小山勇氏から共催者挨拶があった後、日本芸術院会員 井茂圭洞名誉顧問の書家代表挨拶へと続き、樽本樹邨顧問の乾杯発声で祝宴に入り、19時40分に終了した。

(3)東京展

会期 平成27年6月11日(木)~6月21日(日) 6月16日(火)は休館日

会場 国立新美術館(展示室1A・1B・1C・1D)

主催 (公財) 全国書美術振興会 共同通信社

後援 文化庁

開催披露祝賀会 平成27年6月11日(木) 12:30~14:15
ホテルオークラ東京 本館1階 「平安」

ギャラリートーク ①平成27年6月13日(土) 14:00~
国立新美術館 展示室
講師 清水透石理事
②平成27年6月20日(土) 14:00~
国立新美術館 展示室
講師 泉原壽巖評議員

東京展の出品数は、巨匠15点、代表77点、委嘱34点、招待547点、秀拔選784点、東京展合計1,457点、他展の委嘱(関西展委嘱27点・中部展委嘱14点・九州展委嘱10点)も加わり、総展示数1,508点で当会としては最大の展示数。

会期中の入場者数は8,565名だった(前回42回展の入場者数は7,348名)。

会期初日の6月11日(木)12時30分から、ホテルオークラ東京本館1階「平安」において開催披露レセプションを行い、来賓・出品書家・招待者合わせて501名の出席があった。
レセプションでは、当会荒船清彦代表理事・会長の主催者代表挨拶、衆議院議員・書道国会議員連盟会長 河村建夫氏の来賓祝辞、衆議院議員・書道国会議員連盟会長代行の塩谷立氏の発声で一旦乾杯、続いて、株式会社共同通信社代表取締役専務 高井雅司氏から共催者挨拶があった後、日本芸術院会員 井茂圭洞名誉顧問の書家代表挨拶へと続き、祝宴に入り、14時15分に終了した。

(4)九州展

会 期 平成27年7月9日(木)～7月14日(火)
 会 場 福岡アジア美術館(7階企画ギャラリーABC・8階交流ギャラリー)
 主 催 (公財)全国書美術振興会 西日本新聞社
 後 援 文化庁
 開催披露祝賀会 平成27年7月11日(土) 18:00～19:30
 ホテルオークラ福岡 4階 「平安」
 ギャラリートーク 平成27年7月12日(日) 11:00～
 福岡アジア美術館 ギャラリー
 講師 岩田海道評議員

九州展の出品数は、巨匠15点、代表77点、委嘱10点、招待116点、秀抜選192点、合計410点、会期中の入場者数は1,794名だった(前回42回展の入場者数は1,470名)。西日本新聞社の紙面協力を得ている。

会期初日の7月11日(土)18時から、ホテルオークラ福岡4階「平安」において開催披露レセプションを行ったが、来賓・出品書家・招待者合わせて83名の出席だった。

レセプションでは、当会津金孝邦代表理事・理事長、荒船清彦代表理事・会長の主催者代表挨拶、西日本新聞社取締役営業本部長 柴田建哉氏から共催者挨拶があった後、日本芸術院会員 井茂圭洞名誉顧問の書家代表挨拶 兼 乾杯発声で祝宴に入り、19時30分に終了した。

2. 第43回「日本の書展」巡回展

現代書壇巨匠と現代書壇代表の92点については、関西展、中部展、東京展、九州展の直轄4展終了後、本会・共同通信社・各地元新聞社の共催、文化庁後援により、約1年間をかけて、地方9カ所を巡回している。9月末日現在4番目の青森展まで終了。

第43回「日本の書展」巡回展 実施会場一覧

	開催地		地元主催新聞社	会 場	会 期	地元 作品数	入場者数
1	富山	富山市	北日本新聞社	富山県民会館	27.7.17～7.20	174	1,569
2	島根	松江市	山陰中央新報社	島根県立美術館	27.8.6～8.10	200	574
3	栃木	宇都宮市	下野新聞社	FKDショッピングモール宇都宮インターパーク店	27.8.26～8.30	309	2,971
4	青森	青森市	東奥日報社	青森市民美術展示館	27.9.10～9.14	284	992
5	広島	広島市	中国新聞社	福屋広島駅前店 8・9階催事場	27.10.1～10.6	632	19,408
6	岡山	岡山市	山陽新聞社	天満屋岡山店 6階葦川会館	27.10.14～10.19	588	5,229
7	奈良	奈良市	奈良新聞社	奈良県文化会館	28.2.17～2.21	(311)	(3,856)
8	長野	長野市	信濃毎日新聞社	長野県信濃美術館	28.3.4～3.7	(230)	(1,803)
9	茨城	水戸市	茨城新聞社	茨城県立県民文化センター	28.4.9～4.14	(272)	(1,703)

※ () 内の数字は前回第42回展の実績

3. 第43回「日本の書展」東京展 公募臨書

会 期 平成27年6月11日(木)～6月21日(日) 6月16日(火)は休館日
 前期展示 平成26年6月11日(木)～6月15日(月)の5日間
 後期展示 平成26年6月17日(水)～6月21日(日)の5日間
 会 場 国立新美術館(展示室1Dの一部 51～53室の3室)

主 催 (公財) 全国書美術振興会 共同通信社
後 援 文化庁

2012 (平成24) 年の第40回から東京展に新設・併催された公募臨書も今回4回目となる。出品点数は931点で、前回の994点より63点減だったが、ほぼ安定した点数を保っている。

平成27年1月22日に、国立新美術館審査室で審査委員15名による入選・落選の審査鑑別を行ったが、入選率50%を念頭に置いた審査をし、結果、入選数は441点、入選率は47.4%となった。内訳は下表参照。

出品整理料は前回同様1,000円だが、今回から入選作品については表具代および作品返却送料の一部を負担してもらうことになり、入選者から更に1,000円を徴収した。入選作品は表具をして国立新美術館の51～53の3室に展示したが、今回も壁面展示となる半切たて作品の出品が大変多いため、壁面展示は2段掛けとした。

展示後、入選者には表装作品と共に、一色白泉評議員筆耕の「入選證」が贈られ好評だった。

第43回「日本の書展」東京展公募臨書 入選数一覧 <展示方法・展示期間別内訳>

	壁面展示		机上展示		計
	半切たて	半切よこ	篆 刻		
前期展示	190	27	5		222
後期展示	188	26	5		219
入選数合計	378	53	10		441

第43回「日本の書展」東京展公募臨書 入選数一覧 <作品ジャンル別内訳>

	漢 字		仮 名		篆 刻
	半切たて	半切よこ	半切たて	半切よこ	
		322	11	56	42
	333		98		
入選数合計	441				

4. 「日本の書展」ポルトガル展

(1) 展覧会

会 期 平成26年10月10日 (金)～12月28日 (日)
会 場 カルースト・グルベンキアン財団 本館企画展示会場
主 催 カルースト・グルベンキアン財団
在ポルトガル日本国大使館
公益財団法人 全国書美術振興会
助 成 一般社団法人 東京倶楽部

(2) 開会式典行事

日 時 平成26年10月9日 (木)
①マスコミ取材 17:30～18:00
公益財団法人全国書美術振興会会長 荒船清彦
市澤静山理事
師田久子理事
現地テレビ局 “Saber Viver Lisboa TV” の取材を受けた。

②開会式 18:30～18:40

3 共催団体代表者からの挨拶

カルースト・グルベンキアン財団理事長 アルトゥール・サントス・シルヴァ

駐ポルトガル日本国特命全権大使 東博史

公益財団法人全国書美術振興会会長 荒船清彦

③内覧会 18:40～19:00

④デモンストレーション 19:00～19:30

市澤静山理事

師田久子理事

(3)デモンストレーション

講師 漢字 市澤静山

かな 師田久子

①開会式

日時 平成26年10月9日(木) 19:00～19:30

会場 カルースト・グルベンキアン財団 本館企画展示会場

②公開講座

日時 平成26年10月10日(金) 10:30～12:15

会場 リスボン大学芸術学部

リスボン大学芸術学部の制作室において、50名の受講者を対象に、30分間のデモンストレーション、引き続き60分間のワークショップを行った。

リスボン大学芸術学部が、学生および一般に公開講座の募集をかけたところ、参加希望者が殺到し、募集初日ですでに定員を上回り、対応した大学側もこの好反響は予想できなかったとのこと。

ワークショップでは、受講者個々が小筆を持ち、市澤・師田両講師の手本を基に、半紙に繰り返し練習をし、本番用の料紙に作品を書き、遊印を押して、うちわに貼って完成させるまでを行った。

受講者を十数グループに分け、今回の渡航団の書家を講師として各グループに1人ずつ配置し、時間をかけて指導したせいか、書が初めてとは思えない程のいい出来栄えに、書家は皆想像以上の成果だったと話していた。

公開講座の様子は現地新聞社“Diário de Notícias”によって取材され、翌日10月11日付の朝刊34面(芸術面)の一面に写真入りで掲載された。

③一般来場者向け

日時 平成26年10月10日(金)

1回目 16:00～16:45

2回目 17:00～17:45

会場 カルースト・グルベンキアン財団 本館企画展示会場

1回の実施を考えていたが、一般や団体からの事前問い合わせが多く、混雑が予想できたため、急遽同じ内容のデモンストレーションを2回実施することになった。

200名を超える来場者を前に、市澤・師田両講師とも力のこもった揮毫を行い、大きな反響を得た。

揮毫作品は展示会場の壁面に展示され、また、デモンストレーションの様子は動画に収めて会場内のスクリーンに映し出され、年末までの会期中、来場者が鑑賞できるようにした。

Ⅱ. 機関誌および書美術に関する出版物刊行ほか

1. 展覧会作品集等の制作

(1)「日本の書展」直轄展

- ①第43回「日本の書展」図録 4, 310部
現代書壇巨匠・現代書壇代表・全展委嘱作品図版をオールカラー刷りで掲載。
巻末には、全展招待・秀拔選作家を含む全出品者名簿を掲載。
各出品者には、1冊ずつ贈呈。
- ②出品者本人の作品プロマイド 7, 222枚
展覧会名・姓号入り 2Lサイズ カラー写真 非売品。
各出品者には、出品者本人のプロマイドを2枚ずつ贈呈。
(出品者3, 461名×2枚ずつ、現代書壇巨匠15名のみ×20枚ずつ)
- ③出品者名簿 関西展 14, 500枚
中部展 11, 500枚
東京展 21, 500枚
九州展 6, 500枚
- ④案内はがき 119, 500枚
- ⑤ポスター 500枚

(2)「日本の書展」巡回展

- ①第43回「日本の書展」図録 1, 050部

(3)「日本の書展」ポルトガル展

- ①「日本の書展」ポルトガル展図録 1, 000部
日本語・ポルトガル語・英語の3カ国語表記で制作。
ポルトガルでは、開会式で招待客や関係者に配布されたほか、大使館・グルベンキアン財団の両方で広報用として活用された。グルベンキアン財団のミュージアムショップでは一般頒価7ユーロで販売したが、一般販売分の200部は完売した。
日本では、出品者に2部ずつ贈呈した。
- ②会場配布用パンフレット 12, 600部
日本語・ポルトガル語・英語の3カ国語表記で制作。
展覧会来場者に無料で配布した。

2. 機関誌「書美術」の刊行

- 4, 300部
平成27年4月1日に第32号発行

3. ホームページの更新

4. スマートフォンカバー「One Cover」の発売

国内スマートフォン・タブレットの販売台数は、平成28年には4, 910万台まで成長すると見込まれ、それに伴い、近年スマートフォン・タブレット関連のアクセサリも急成長している。当会でも理事数名に協力をお願いし、筆を持たない一般人にも書美術に馴染んでもらうための足がかりとしてスマートフォンカバーを製作、平成27年5月から試験的にウェブ上で販売を開始した。一般頒価2, 980円(税込・送料込)。

漢字は有岡郊崖理事、高木聖雨理事、仮名は清水透石理事、高木厚人監事をお願いをした。当会の図録制作を行っている日本写真印刷株式会社が運営するオリジナルスマートフォンケース作成サービスと契約を結び、販売に関わるあらゆる業務は日本写真印刷に委託し、当会は商品在庫を持たず、当会からの支出もなし。1点販売ごとに、著作権者（作家）には160円、当会には仲介手数料として100円が充当される契約。注文販売はウェブ上のみだが、展覧会場にケースサンプルやパンフレットを設置したり、当会ホームページでウェブサイトを紹介するなど広報に努めている。今後も様子を見ながら、作家数や種類を増やしていく方向。

Ⅲ. 書美術功労者の顕彰

特になし。

以 上